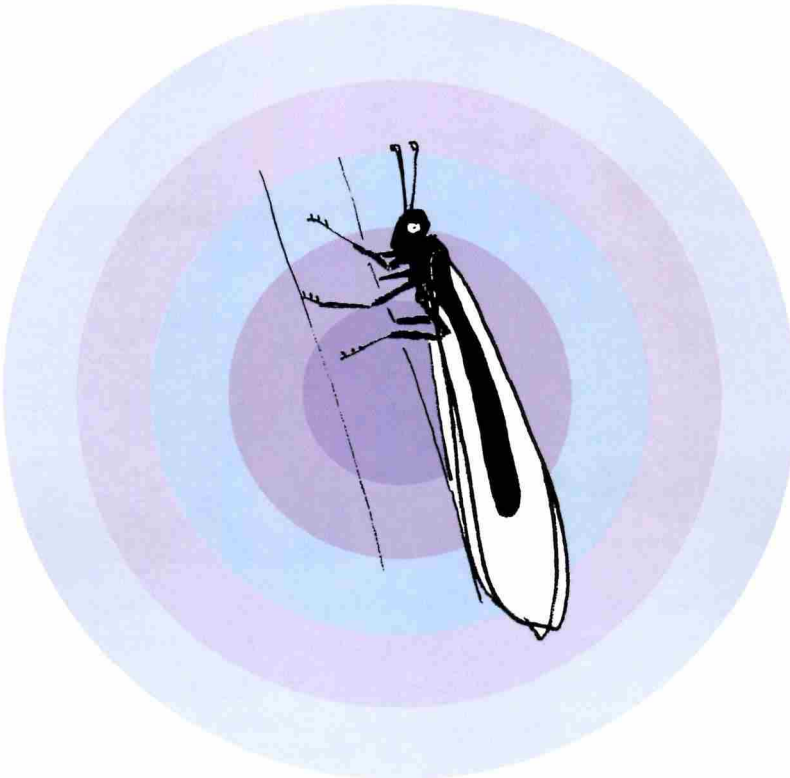
9. その他のむし



大きさ（体長）

頭の先から翅の先まで

ウスバカゲロウ（ウスバカゲロウ科）

●よく見かける時期　6月～9月　●大きさ　30mm

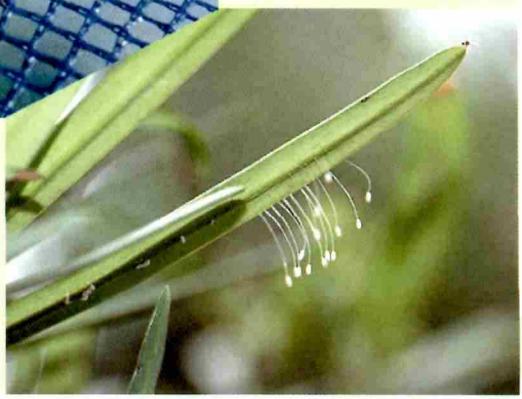
（幼虫）

（すり鉢形の巣）

カゲロウという名がありますが、いわゆるカゲロウとは全然違います。幼虫はアリジゴクの名前で呼ばれ、縁（えん）の下や木かげの乾いた土の中に、すり鉢（ばち）形の巣をつくり、巣の底で小さな虫が落ち込んでくるのを待っています。虫をつかまえると、体液を吸います。

クサカゲロウ（クサカゲロウ科）

●よく見かける時期　5～7月　●大きさ　15mm



（卵）

体は緑色で、翅（はね）はすきとおっています。幼虫・成虫ともに動物食性で、アブラムシ、カイガラムシ、ダニなどを食べます。

クサカゲロウの卵は、長さ2㎝くらいの柄（え）がついて、十数個産みつけます。昔から、この卵のすがたを花が咲いたようすにたとえて、「うどんげの花」と呼ばれ、なぜか悪いことがおこる前ぶれと嫌（きら）われています。

ツノトンボ（ツノトンボ科）

●よく見かける時期　5～9月　●大きさ　30mm

トンボの名前がつけられていますが、トンボのなかまではありません。ウスバカゲロウに似ていますが、ひげが長く、翅の長さの半分以上で、先がふくらんでいることなどで区別できます。成虫をつかまえると、くさい臭いがします。幼虫は草むらにすみ、小さな虫などを捕（と）らえて食べます。